

# 新潟大学の歴史

## < 同窓会員相互の共通認識に向けて >

### 1 新潟大学の誕生

#### (1) 「新潟大学」の誕生と発展

- ・1949年（S24）学制改革により「新潟大学」誕生（医学部、人文学部、理学部、教育学部、農学部、工学部の6学部）
- ・大学の母体（新潟医科大（T11年創設 旧制六医科大学の一つ）、旧制新潟高校、新潟第一・第二・青年師範学校、県立農業専門学校、長岡工業専門学校）

#### (2) 設立後の学部増設、改変と新入学定員

- 「歯学部」創設 1965年（S40） 定員40人
- 「法文学部」分離改組で3学部創設 1980年（S55）  
（定員/「人文学部」150人「法学部」200人・「経済学部」200人）
- 「教育学部」を「教育人間学部」に改組し、1998年（H10）、2008年「教育学部」に名称戻す。
- 「創生学部」を新設 H29 65人

※大学創設時6学部（総入学定員1395人）→現在10学部（総入学定員2242人）

※大学設立時（1949）は国立大学二期校であったが、改編で一期校になった。

※スクールカラー 「グリーン」

※イメージソング 「耳を澄ませば」 詩・曲・歌 笹川美和 2008年から

#### (3) 人文学部の変遷

- ア 発足時の学科
- ・人文学科に6専攻課程（哲学、心理学、歴史学、国文学、英米文学、独逸文学）
  - ・社会学科に2専攻過程（法、経済）
- イ 学科の充実拡大
- ・1965年（S40）から哲学科、史学科、文学科、法学科、経済学科の五学科制となる。
- ウ 昭和33年人文学専攻科、50年に修士課程（法学）、60年に修士課程（人文科学）設置。
- エ 昭和52年人文学部が「法文学部」になる。
- オ 昭和55年「人文学部」、「法学部」、「経済学部」の三学部になる。

#### (4) 人文学部の母体

- ア 官立新潟高等学校の時代
- ・官立高校はナンバースクール制度でスタート  
第一高等学校（東京：1894年（M27）～第八高等学校（名古屋：1908年（M41））。
  - ・第九高等学校の設立で新潟市と松本市が熾烈な誘致合戦を演じ、政府はナンバースクール制度を廃止。

- ・所在地名の「ネームスクール」となり「新潟高等学校」（文科、理科）は1919年（T8）松本高校等とともに官立で9番目、私立を含めた旧制高校は39校になった。この高等学校が新制新潟大学の人文学部、理学部の母体となる。

**(参考) 著名なOB出身者 (文科、理科)**

- ・ **知事** 大沢雄一（埼玉）・神田坤六（群馬）・君健男（新潟）等
- ・ **政治家** 小沢辰男（建設大臣ほか）、稲葉修（法務大臣ほか）、上田哲（衆議院議員）、田中正巳（厚生大臣）等
- ・ **実業家** 池島信平（文芸春秋社長）、木暮剛平（電通社長）、斎藤英四郎（経団連会長）、三鬼彰（新日鉄会長）等
- ・ **学者** 五十嵐清（法学）、小和田顯（漢文）、河合雅雄（霊長類）等
- ・ **文芸人** 綱淵謙錠（小説）、百目鬼恭三郎（文芸評論）、中山公男（美術評論）、野坂昭如（小説）、丸谷才一（小説）等
- ・ **官界** 中村清（会計検査院長）、高鳥修（総務庁長官、経企庁長官）等

**(5) 草創期人文学部の様子**

- ア 同窓会誕生 人文学部第一回の卒業生（昭和28年卒）110人が同科会創設  
 （**人文科学科**→哲学、心理学、歴史学、国文学、英米文学、独逸文学ごとに同科会設立）  
 （**社会科学科**→法律、経済2専攻で30年代から「法学士会」「経済学科同窓会」誕生）

- ・同窓会誌「青い山脈」創刊 1983年（S58）、
- ・同誌廃止し、新同窓会誌「青松」創刊 1986年（S61）
- ・人文学部同窓会は学部分離後も3学部1同窓会の現在の形となった。

**(6) 人文学部の大きな飛躍**

ア 西大畑キャンパスから五十嵐キャンパスへ移転 1972年（S47）

旧制高校の六華寮跡地にプレハブ校舎を相次いで建てたが、五十嵐の新キャンパスへの移転希望が強く昭和44年に新独立校舎が完成した。しかし学園紛争の影響で、1年遅れて移転を開始。砂丘の防砂林にスイカなどの畑地が多く学生は「五十嵐砂漠」、通学路の長い坂を「鯨坂」などと称した。

イ 大学開学50周年事業

三学部校舎正門前庭にオリーブを持つ裸婦像「勝利」を寄贈。

ウ 人文学部の改編（1977（昭和52）人文学部が「法文学部」に改められる。

エ 法文学部が「人文学部」「法学部」「経済学部」の3学部に分離・改組される。 1980年（S55））。

※**人文学部**は、分離改組後「行動科学課程（人間学と行動科学の二大講座）」と「文化課程（日本文化、東洋文化、英米文化等）」の二課程となる。

1993年（平成5）「大学院現代社会文化研究科」（博士）。翌年3月「行動科学」「地域文化」「情報文化」の3課程になる。

平成 22 年度から「人文学科」一学科制となる。

※**法学部**は、分離改組後、[法学科]（公法、民事法等五大講座）になり、平成元年基礎法講座を増設し、1994 年（平成 6）10 月「法学科」と「法政コミュニケーション学科」の二学科制度となり、両科に夜間主コースを設置。昭和 50 年「大学院法学研究科」（修士）設置。

※**経済学部**は分離改組後、経済学科（基礎経済論、経済制度など五大講座）となる。平成元年に「大学院経済研究科」経済学専攻（修士）が設置され、人文学専攻科（経済学専攻）は廃止、平成 6 年 9 月「経済学科」と「経営学科」に改められ両科に夜間コースが設置された。

※**人文学部同窓会**は、学部の分離後も「3 学部 1 同窓会」の現在の形態となり総会員数約 2 万人、本部のほか「首都圏支部」や「群馬県支部」など 10 の支部を持つこととなった。

## （7）教養部の変遷

- ・1962 年（S37）に学内措置による「教養部」が各部供出の教員等 24 名で発足。西大畑の理学部校舎の一部を充てた教養部は教官会議などの組織を確立し、昭和 39 年に制度化された。
- ・その後、文部省令により 1994 年（H6 年）4 月教養部は廃止。代わりに「大学教育開発研究センター」を設置。

### （参考）学生生活アラカルト

#### A 大学設立当初

戦後すぐは、衣食住支出、特にエンゲル係数が高く、アルバイト希望者が 60%を超える状態であった。1 か月の生活費は 1500 円から 3000 円程度、それに学費が加わり、授業料滞納者も多かった。

#### B 経済環境の改善（昭和 30 年代から 40 年代）

昭和 30 年代になると景気が回復、34 年の卒業生初任給が 12,000 円～18,000 円程度。元学長らの寄付金を原資にした学内の奨学金は 31 年で年額 1 万円（後 2～3 万円）であった。学園紛争後の 47 年、食費の全支出に占める割合が、開学当時の 60%に対し 32.4%まで下がった。

家庭教師などアルバイト学生は依然多く、家庭からの仕送りが 55%～71%を占めた。

#### C 新潟大学生協同組合

大学厚生会の運営が不評であり、1963 年（S38 年）に食堂、購買部、書籍部を運営する法人化した生協が設立された。しかしこれも赤字続きで、大幅な経費カットが余儀なくされた。

#### D 学生食堂

開学初期から西大畑の理学部構内にて個人経営の「学生ホール」が食事を提供。その後「学生ロンジ」「喫茶室ブルンネン」も大学厚生課が同人に経営させていた。学生ホールは五十嵐移転の昭和 47 年に閉鎖。

五十嵐キャンパスでは、昭和 45 年の理学部移転と同時に生協が食堂を開業し、農学部移転で第二食堂、さらに第三食堂も開業された。

## E 学園祭

五十嵐キャンパスでは4月に部活やサークルの紹介を行う「黎明祭」を開催し、11月に「新大祭」（運営は新大祭常任委員会、FM新潟がスポンサー役）を開催しミュージシャンのライブなどが開かれた。

## 2 キャンパスの移転

### (1) 西大畑から五十嵐キャンパスへの移転の経緯

#### ア 従来のキャンパス

- ・創設時に前身校の校舎を引き継いだ新潟大学のキャンパスは県内各地に点在し、教育学部高田分校（上越市）や工学部（長岡市）の生徒は、西大畑での所定の教養課程履修後に各地で専門課程の授業を始めるという二重生活を強いられた。
- ・校舎・設備の老朽化もあって1960年代に入りキャンパスの整備移転計画が持ち上がり、65年2月に五十嵐地区への移転統合が決定された。
- ・しかし、分校のある、上越市や長岡市では移転統合に反対する声があがり、学生の反対運動も激しくなり1969年2月の全学交渉（当局と学生の交渉）の結果、計画は白紙撤回、学長の引責辞任まで発展。同年3月五十嵐地区に教養部の新校舎が完成するも1年間放置、70年安保闘争やベトナム反戦の全国的学生運動が起こり、五十嵐移転計画に大きな影を落とした。
- ・1968年度（S43年度）冬には、過激派学生による西大畑構内の封鎖事件が起き、当局の要請によって県警機動隊が封鎖を実力で解除することもあった。しかし正常化には程遠く、学内試験はレポート提出の科目が多く出現した。

#### イ 五十嵐キャンパス

- ・難産の結果70年4月に理学部と教養部が五十嵐に移転し、82年までかけ、医・歯2学部を除き教育学部を最後に移転が終了した。
- ・移転により学生・院生1万2千人を擁する国立大学中10位、日本海側有数の総合大学の誕生となった。
- ・人文学部は昭和47年4月、人文社会学系棟完成により移転した。
- ・その頃の学生生活は、バスで市内から新大西門まで100円、JR越後線の「新潟大学前駅」もまだ出来ず内野駅の利用生が多かった。また近隣に食堂等も少なく学生食堂の前に長蛇の列ができた。

## 3 学生寮（六花寮）の生活と変遷

旧制高校の西大畑「初代六華寮」から関谷地区（「旧六花寮」、昭和27年から「六花」）、五十嵐地区（「新六花寮」）と3代にわたり寮生が利用。

- ・初代・六華寮(西大畑)：旧制高校から大学へ移管になり関谷地区移転まで存続（1919（T8）～1949（S24）新制大学設立～1965（S40））

寮生活はバンカラストイル、夜間のストーム、寮祭などが行われ、西大畑の「どっぺり坂」は歓楽街への遊興に足を運ぶことを戒める59段（60点が及第点）の石段がある。現在この坂の記念碑や、六華寮跡地の記念碑がある。

- ・旧・六花寮（関谷）：1965.12～五十嵐地区への移転（2011.3）まで存続  
A館、B館の2棟、鉄筋コンクリート4階（1～3階が4人部屋、4階が2人部屋）。  
全寮委員会による自治制で寮費徴収、食堂経営、光熱費支払まで事務全般を管理運営。  
予算決算行事計画等「全寮委員（2年生中心）」を中心に運営。

（参考）（利用料金の一例）

食堂（昭和40年 朝食券20円、昼・夜食券40円、昭和60年 朝100円、昼・夕200円、平成22年 朝150円、昼夕330円）

- ・新・六花寮（五十嵐）：2011（平23）～  
新・六花寮は（「五十嵐寮A棟」（男子100人）、「五十嵐寮B棟」（女子100人））が南北別棟に各2階建1棟、4階建2棟、中心に「管理棟」の三つになった。  
各フロア男女とも1人部屋10室、異なる学部学年、院生、留学生が混住。  
設備：共用ダイニング、キッチン、トイレ、浴室、ランドリー

- ・二葉寮（女子寮） 1954年～1981年の五十嵐B棟完成まで存続  
（所在地：旧新潟市二葉町三丁目、現中央区古町13番地）

（参考）

○寮歌（「四季の新潟」「新潟大学学生歌」「頌春の歌」「友よ語らん」「越後の春の」「黎明の孤城」）

○寮行事（ウソコン、夜行会、六花寮祭、コンパ）

「寮歌・頌春の歌」

♪生誕ここに一年と春は再び廻り来ぬ 草木緑に萌え出でて雲雀は高く歌ふなり  
若き誇りの二百人光を浴びて丘に立つ ♪

息抜き生活アラカルト（主として西大畑時代の羨望と現実）

- ・日本酒（羨望：久保田、越乃寒梅など一級酒）（現実：吉野川など二級酒）
- ・ウイスキー（羨望：サントリーだるま、ロイヤル）（現実：サントリーレッド、ホワイト）
- ・飲み会・会食（羨望：鍋茶屋、キャバレー香港、イタリア軒）（現実：越路会館、学校町「亀萬」ETC）
- ・買物（羨望：大和デパート、小林デパート）（現実：清水フードセンター）
- ・帰省（羨望：特急「とき」）（現実：「急行さど」「鈍行」）

#### 4 学費/授業料

- ・開設当時から授業料・入学金等詳細な資料見当たらず。

- ・昭和 43 年入学時に入学金 1 万円、授業料月額 1000 円（年額 12,000 円）。当時私立大学と平均で 8 倍の開きがあったといわれている。
- ・現在は、入学料 282,000 円、授業料年額 535,800 円（夜間を除く。）

## 5 新潟地震と大学

- ・1964 年（昭和 39）6 月 16 日粟島沖でマグニチュード 7.7 の大地震発生
- ・旭町と西大畑では被害軽微、河渡の農学部で校舎、農場に冠水被害発生。教職員学生に被災者が多く 6 月 26 日まで授業休業。人文学部は夏季休業まで休業。

## 6 国立大学法人

- ・平成 15 年施行の「国立大学法人法」により新潟大学も国立大学法人となり、経営形態の変更や財政の自主努力など導入され、国の交付金もカット、厳しい運営環境となった。平成 28 年度の国立大学運営交付金は 160 億 4 千万円と 86 大学中 15 位。
- ・授業料の大幅アップなど学生負担も大幅に増え、私立大学の授業料と格段の開きがあった国立大の姿はない。

（国立大学法人組織の充実）新しい運営形式

- ・企画戦略本部（学長室、IR 推進室、評価センター、広報センター、国際戦略企画室、東京事務所、駅南キャンパス室など）
- ・危機管理本部
- ・保健管理本部
- ・事務局など

### （参考文献）

- ・「新潟大学 50 年誌」、「同窓会 50 年の歩み」、「新潟大学全学同窓会写真館」同窓会誌「青松」、全学同窓会誌「雪華」、「ウィキペディア新潟大学」
- 「新潟市歴史文化課写真（新潟市提供）」その他